



CONCEPT BOOK

ゆずりはの新拠点・半開きのシェルター「ながれる」

nagareru

CHAPTER 0 INTRODUCTION	01	イントロダクション
	02	コンセプトブック使用目的について
	03	コンセプト
	03	コンセプト策定に関わった人々
CHAPTER 1 PROJECT OVERVIEW	04	プロジェクト前提概要
	05	ゆずりはの活動領域
	07	ゆずりはの活動背景
	09	ゆずりはメンバー紹介
CHAPTER 2 CONCEPT	10	コンセプト
	11	プロジェクトミッション
	12	プロジェクト背景
	13	コンセプト
	14	「ながれる」が大切にしたい、6つの価値観
	15	ビジョン
CHAPTER 3 ZONING & SPACE	16	機能設計/空間の要件定義
	17	「コミュニティの見える場面をつくる」建築家と共に
	21	3つのエリア
	22	利用イメージ
	25	場の利用シーンと空間機能優先順位
	26	物件情報
	27	地域の雰囲気
CHAPTER 4 COMMUNITY BUILDING	31	コミュニティ形成計画
	32	「ながれる」のロードマップ
	33	場づくりの専門家とのディスカッション
	39	場づくりのアイデア
CHAPTER 5 SCHEDULE & JOIN US	42	今後のスケジュールと関わり方
	43	オープンまでのスケジュール
	44	おわりに
	45	「ながれる」との関わり方

コンセプトブック使用目的について

このドキュメントは、ゆずりはの新拠点「ながれる」のコンセプトをまとめたものです。

ゆずりはは、2011年より児童養護施設や里親家庭などで生活していた人、虐待や支配などの理由から親や家族を頼ることができない人から様々な相談を受けてきました。

ゆずりはの代表者、高橋亜美が「ながれる」プロジェクトの言い出しっぺではありますが、ゆずりはメンバーはもちろん、建築家、クリエイティブカンパニー、場づくりのプロフェッショナルなどの“ゆずりは拡張チーム”で対話し、コンセプトを深めてきました。

「ながれる」は、ずっと完成しないもの、変わっていくもの、育て続けていくものだと考えています。今後も、様々な人たちと関わり合いながら作り、育んでいきたいと考えています。このコンセプトブックは言わば「ながれる」の原点です。新たに仲間になる方にも読んでいただきたいですし、私たちが辛く心折れそうな時に、ペラペラとめくって心にチャージをし、いろんな人生に向き合っていきたいと思っています。

ゆずりはの新拠点・半開きのシェルター「ながれる」
プロジェクトチーム一同



コンセプト

街に半分開いた

閉じ込めないシェルター「ながれる」

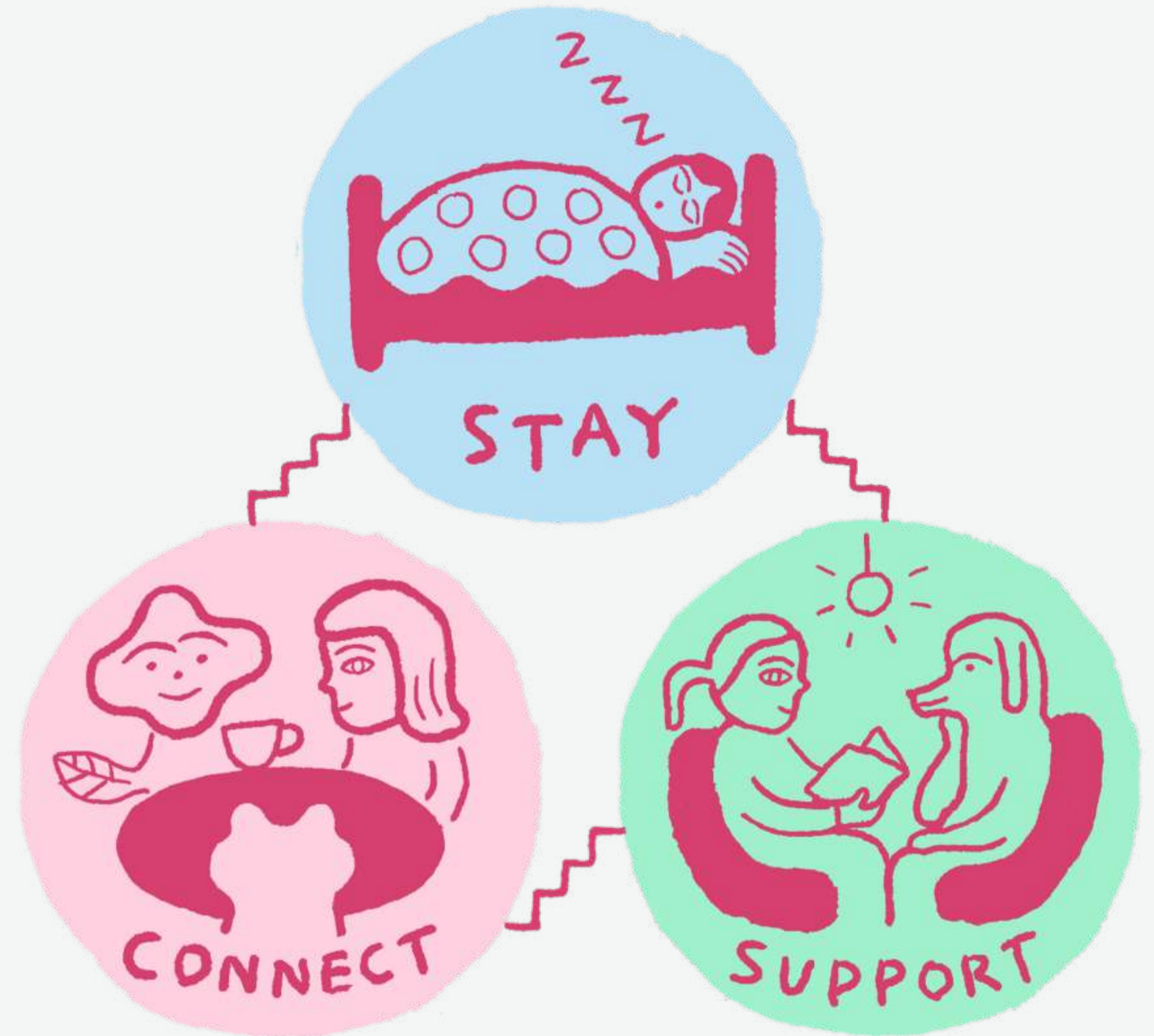
どこにも居場所がないと思った誰かが、ふと流れついた先。

・
・

この場を行き交う様々な人たちと、無関心でも過干渉でもない、ちょうど良い距離感で、同じ空間で食べるご飯が美味しい。目に映る植物や花の存在、街を歩いて感じる生活の気配が嬉しい。安全のために閉じ込められるわけではなく、外の風がほど良く流れてくることで、ほっと安心する。心身をチャージした後は、「これから、自分で自分の安心を育てよう」と、次の生き方へと再び流れだす。

・
・

居心地は良くても、留まることなく、次の場所、次の人生のステージにちゃんと流れていける場所でありたいと願って、「ながれる」と名付けました。



コンセプト策定に関わった人々

新しい福祉、支援の形を模索するために、ゆずりはだけでなく、企画のプロ、空間づくりのプロ、場づくりのプロなどを交えてコンセプト策定を行いました。

ゆずりはが現場で感じているミッションや想いを大切にしながら、新たな挑戦です。

✿ ゆずりは



高橋 亜美
所長
プロジェクトリーダー



今井 峻介
事務局



小柳 和歌子
広報



大高 勇二
ゆずりはスタッフ

loftwork



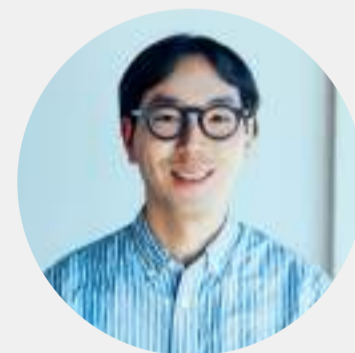
服部 木綿子
プロジェクトマネージャー
クリエイティブディレクター



許 孟慈
クリエイティブディレクター



柏木 鉄也
プロデューサー



横山 隼也
アドバイザー（設計関係）

空間設計



安部 良
Architects Atelier Ryo Abe
一級建築士
博士（芸術工学）



安部 知
Architects Atelier Ryo Abe
マネジメント

物件紹介



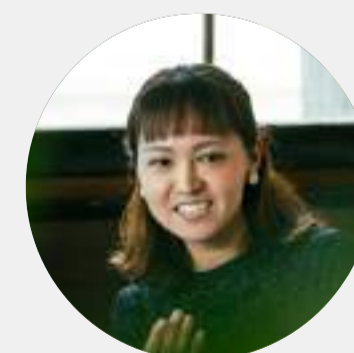
室田 啓介
東京R不動産
宅地建物取引士

コンセプトビジュアル



塩川 いづみ
イラストレーター

有識者



小笠原 舞
合同会社こどもみらい探求社 共同代表



奥 祐斉
株式会社 bona 代表取締役



塩満 直弘
萩ゲストハウスrucoオーナー
Backpackers' Japan 取締役CCO



CHAPTER
1 PROJECT OVERVIEW
プロジェクト前提概要

ゆずりはの活動領域

社会的養護とは？

保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことです。「こどもの最善の利益のために」と「社会全体でこどもを育む」の2つの理念のもとに、様々な施策が実施されています。



✿ ゆずりは

ゆずりはは、児童養護施設や里親のもとを巣立った人を対象にした相談所としてスタートしましたが、現在は、社会的養護を巣立った人たちのみならず、虐待や貧困等の理由から親や家族を頼れず孤立している人たちも対象にしています。

ゆずりはの活動領域

2011年から「自分なんかが生まれて来なければよかった」「生きている価値がない」と苦しみを抱えている人たちに向き合い続けてきました。

8人のスタッフに対し、LINEなどでの相談対応件数は年間のべ6万件にもものぼります。

国分寺に一つ目の拠点を構え、安心して過ごすことのできるサロンや、仕事の機会づくりとしてジャム製造を行う「ゆずりは工房」などを運営しています。

Activity 1

個別相談



住まい、生活、仕事、進学、さまざまな困りごとを伺い、安心して暮らしていくためにできることを一緒に考えサポートしていきます。相談料は無料で、年齢制限なし。

Activity 2

同行支援



必要な申請手続きに関するサポートを提供し、手続きを円滑に進めるためのアドバイスや同行を行います。精神科や産婦人科への通院、入院手続き、生活保護の申請、アパート契約まで同行を行います。

Activity 3

ジャム製造を通じた働く機会の創出



ゆずりはスタッフ、工房スタッフと一緒にジャムの製造をし、販売しています。参加対象は、さまざまな事情で毎日働くことが難しい方、人とやりとりすることに緊張や不安、困難を抱えている方。工賃と交通費全額を当日に支給します。

Activity 4

就学／進学サポート



高卒認定資格を取得するための無料の学習会です。交通費は全額支給、無料の軽食付きです。学習講師が参加者の学びたいことに沿って教えます。

Activity 5

虐待に至ってしまった親への回復プログラム



こどもへの虐待はこれまで人として尊重されなかった痛みや悲しみを、怒りの形でこどもに爆発させている行動です。その感情、身体、理性、魂のすべてに働きかけて、木や太陽や風や雲からも生命力の源をもらうという人間本来のごく自然な感覚を取り戻すMY TREEプログラムも実施しています。

Activity 6

支援者向けの場づくり



対人支援職の方を対象にサロンを開催しています。軽食やお酒などご用意しています。日々の仕事の頑張りや、しんどさなど安心してわかちあって、おだやかな気持ちを取り戻していきます。

ゆずりはの活動背景



「自立」を求められたこども・若者たちが
施設や里親のもとを巣立ち、
困難な状況に陥ってしまう背景

Quotation

社会的養護下で暮らす、親を頼れないこどもたち。
全国約4万5,000人のうち、約2,000人が毎年18歳で自立を求められます。

日本財団ジャーナルより引用



Background 1

トラウマによる 社会生活の困難

社会的養護下から出た若者は、トラウマで社会生活に苦労し、就職や進学でつまずいても頼れる大人がいません。多くの若者は住居費や生活費を自分で稼ぎ、体力的・精神的に疲弊して進学を諦める、または就職しても長続きしないケースが多い。

Background 2

親や家族の不在

児童養護施設から巣立ったこどもたちは、親や家族を頼ることができず、自分で生活を維持しなければなりません。セーフティネットとなる親や家族が機能しないため、失敗することも立ち止まることもできない状況に置かれています。

Background 3

虐待や貧困の背景

多くのこどもたちは虐待や深刻な貧困の背景を持ち、過去のトラウマや貧困により社会適応に困難を抱えています。

Key Issue

虐待を受けた児童は増加している

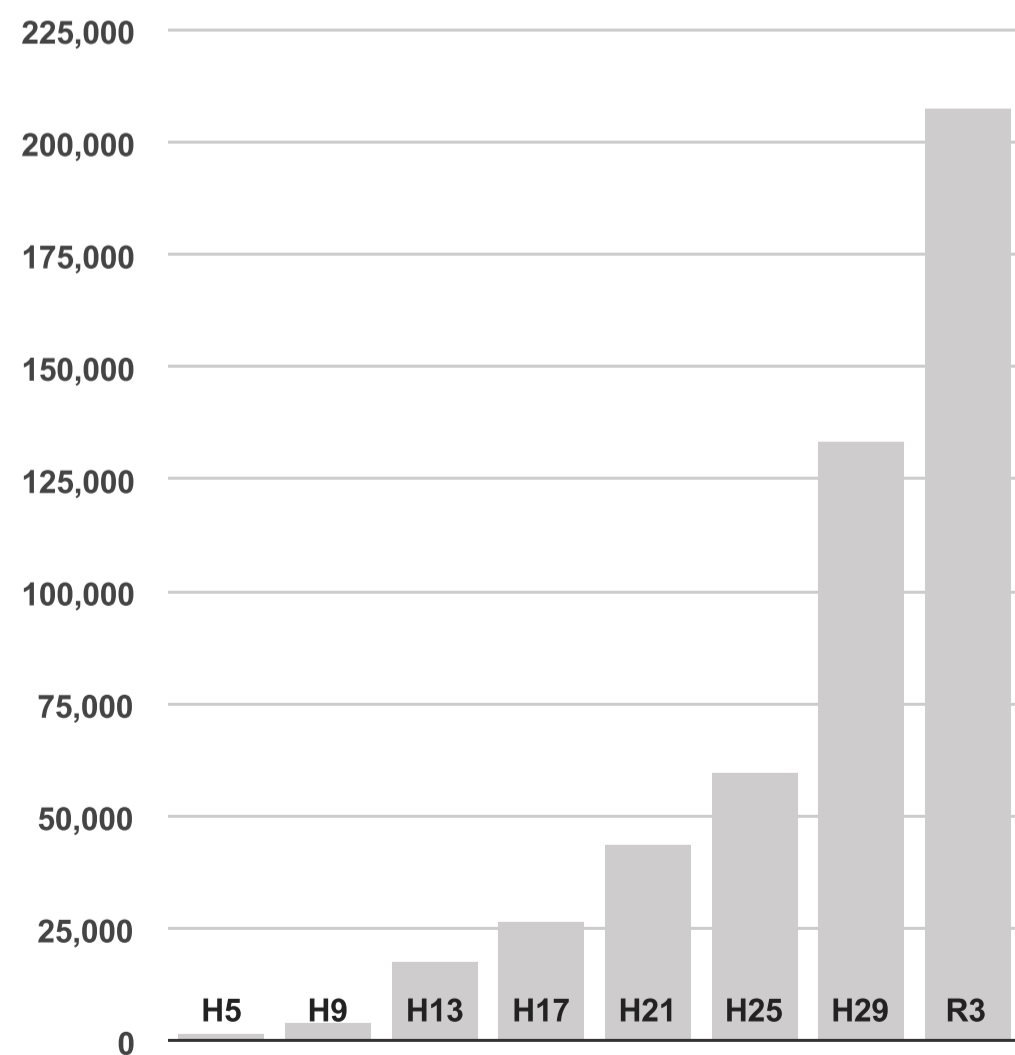
近年、児童虐待の報告件数は増加の一途をたどっています。厚生労働省のデータによれば、2022年には児童相談所が対応した虐待件数は過去最高を記録しました。児童虐待の増加等に伴い、児童虐待防止対策の一層の強化と共に、社会的養護の量・質、共に拡充が求められています。



Data 1

虐待の相談件数増加

虐待の相談件数は増加しており、現在は20万件以上になっている



Data 2

児童虐待相談対応の内訳

相談対応件数のうち、一時保護が27,300件、施設に入所する等、家庭ではない場所で養育を受ける（社会的養護の下に入る）のが4,421件



Data 3

高等学校等卒業後の進路

	人数	進学		就職	その他
		大学等	専修学校等		
児童養護施設児	1,697人	354人 20.9%	305人 18.0%	875人 51.6%	163人 9.6%
うち在籍児	397人	117人 29.5%	89人 22.4%	116人 29.2%	75人 18.9%
うち退所児	1,300人	237人 18.2%	216人 16.6%	759人 58.4%	88人 6.8%
(参考) 全高卒者	1,065人	607千人 57.0%	215千人 20.2%	161千人 15.1%	82千人 7.7%

施設を出た人の半数は高校を卒業したら就職している。（全高卒者は15.1%）

Data 4

毎年巣立っていく多くの若者を 少数の施設で支援している

2,000 V.S 36 社会的養護を必要とする児童数 v.s. アフターケア相談を請け負う事業所数

保護者のない児童、被虐待児等家庭環境上養護を必要とする児童は約2千人。これに対し、施設退所後のアフターケア相談を請け負う事業所は全国にたったの36箇所

出典：福祉行政報告例,こども家庭庁支援局家庭福祉課

No Data

過酷な状況を経験しながらも 支援が届いていない人はもっている

データ不明 社会的養護につながらずに虐待を受ける等過酷な家庭環境で過ごした対象者数

教育虐待・性虐待・宗教虐待等外部から見えづらい虐待環境で育ってきた人、児童相談所一時保護されたものの、最終的に家庭に帰されてしまった人など、支援先につながらずに過酷な家庭環境を生き抜いてきた人たちもいる。こうした人たちの実数は明らかになっていないのが現状。

18歳で社会的養護を離れた若者

悩みと孤独

Quotation

社会的養護下から巣立った若者たちにとって、
日常の当たり前のことが大きな困難となります。

トラウマにより社会生活を円滑に進められず、就職や進学でつまずいても頼れる大人がいないためです。さらに、経済的な理由や体力的・精神的な疲労から、就学や就職で行き詰まることも少なくありません。親がいることが前提の社会では、家を借りたり携帯電話を契約することさえ、一人では難しい場合があります。病気や失業時にも頼れる場所がないという現実もあります。社会的養護を離れた若者たちは、多くの壁に直面しながら自立を模索しています。

出典
児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査【報告書】、
三菱UFJリサーチ&コンサルティング,2021

精神疾患を患っていて 通院したいけど、 保証人がいない

精神疾患を患う若者にとって、病院に通いたくても保証人がいないため治療を受けることが困難です。保証人がいないことで、医療機関の利用が制限され、また、仕事の忙しさと通院による出費を考えると多少後回しにすることが多く、健康管理が十分にできない現状があります。

VOICE

精神的に不安定で、心療内科にかかりたいが、生活費などのことも考えて高額な費用がかかる心療内科には行きにくい。

勉強したいけど、 バイトに追われて 学校が疎かになる

バイトに追われ、学校の授業や課題が疎かになる若者が多いです。生活費を稼ぐためにバイトをしなければならず、学業成績が低下し、将来の進路に不安を感じることもあります。

VOICE

学校の課題がハードだが、アルバイトをしなければ生計を立てるのが難しい。また、そのアルバイトも、夜間の学校という事情から働ける時間が限られ、学校、バイト、課題の3つを両立するために睡眠時間がほとんど取れていない。

連絡手段を持ちたいけど、 携帯の契約ができない

社会的養護を離れた若者たちは、携帯電話を契約することさえ難しい場合があります。保証人が必要だったり、信用情報が不足しているため、契約を断られることが多いです。これにより、連絡手段を確保できず、就職や日常生活に支障が出ます。

VOICE

携帯の機種変更や引越しの手続きのとき、親の承諾を得なければいけないのでできないことが多かった。そして何かの続ききって無知の世界...契約もそう。知識がなくて不安になった。

働きたいけど、 適職が見つからない

適職が見つからず、資格も持っていないため、安定した仕事に就くことが難しい若者が多くいます。職場環境が厳しい場合もあり、精神的な負担が大きく、長続きしないことも少なくありません。

VOICE

仕事に無事就けても、それが本当に自分のやりたいことかは分からなくて退職。精神的にも体調的にも不安定で、再就職がなかなか決まらない。

部屋を借りたいけど、 アパートが契約できない

一人暮らしを始めたい若者が、アパートを契約する際に保証人がいないため契約できないことが多いです。このため、友人の家に居候するしかなく、安定した生活が送れない状況に陥っています。

VOICE

家族との繋がりが無い為、保証人等をどのようにしたら良いか困っている。



年間のべ6万件の相談対応をする ゆずりはメンバー紹介

ゆずりははそれぞれがプロフェッショナルの8人体制。
きれいごとばかり言ってもらえないような多種多様な相談に対し、
専門的な知識と経験値をフル稼働させ、検討し対応しています。

01 02 03 04 05 06 07 08



AMI

あみ

大雑把で口が悪いが正直者。街の中に川がある景色が好き。海外ドラマ、散歩、風呂、酒で幸せ。



MOMOKO

桃子

派手髪のライターで、人の話を聴くのが好き。アート、漫画、哲学、まちづくりらへんに生息。



EIKO

詠子

根はマジメだけど、基本的には『まあ、何とかかなる』と楽天的に生きる。Yogiboでごろ寝するのが大好き。



BEKKI-

ベッキー

元バスケ部(はるか昔)。ワインと日本酒があると機嫌良い。慎重なくせに適当な肝っ玉かあちゃん風。



YU-YA

ゆうや

北海道出身。分からないことはすぐに携帯で調べてしまう。好きな食べ物は3日考えた結果、ハンバーグとなった。



KOMACHI

こまち

落語が好き。アボカドやニンジンの葉っぱを育てて観葉植物にしている。地味に長生きを目指しています^^



YUJI

勇二

何事もとにかく挑戦するタイプ。そして諦めが悪い。空の写真とゲーム、コーヒーが大好き！



RYOKO

涼子

故郷は北九州。コツコツ作業が得意です。ゆずりはみんなの心のバタ子さん。





CHAPTER
2 CONCEPT
コンセプト

ゆずりは、次のステージ

街に半分開いた

閉じ込めないシェルター「ながれる」をつくる



ゆずりはが、今つくりたい場所をつくります。

2011年から「自分なんか生まれて来なければよかった」「生きている価値がない」と苦しみを抱えている人たちに向き合い続けてきました。

ゆずりはには経済困窮やDVといった理由で「帰る場所がない」「今いる場所から逃げたい」と助けを求める人から相談が来ることがあります。こうした切迫した当事者のためにシェルター（避難所）が用意されていますが、手続きが煩雑だったり、窓口で警察の聞き取りのようなことされて二次被害にあってしまったり、入所すると外出が制限されたり、スマホが使えなかったり、追い詰められている人にとって居心地のよい場所にはなっていません。

安全も大事だけど、それ以上に安心を大事にして当事者にとって居心地の良い場所をつくりたい。

完全に閉じ込めるのではなく、少しだけ街に開いた新たな居場所。まだ世の中にないけれど、きっと必要とされていると信じています。

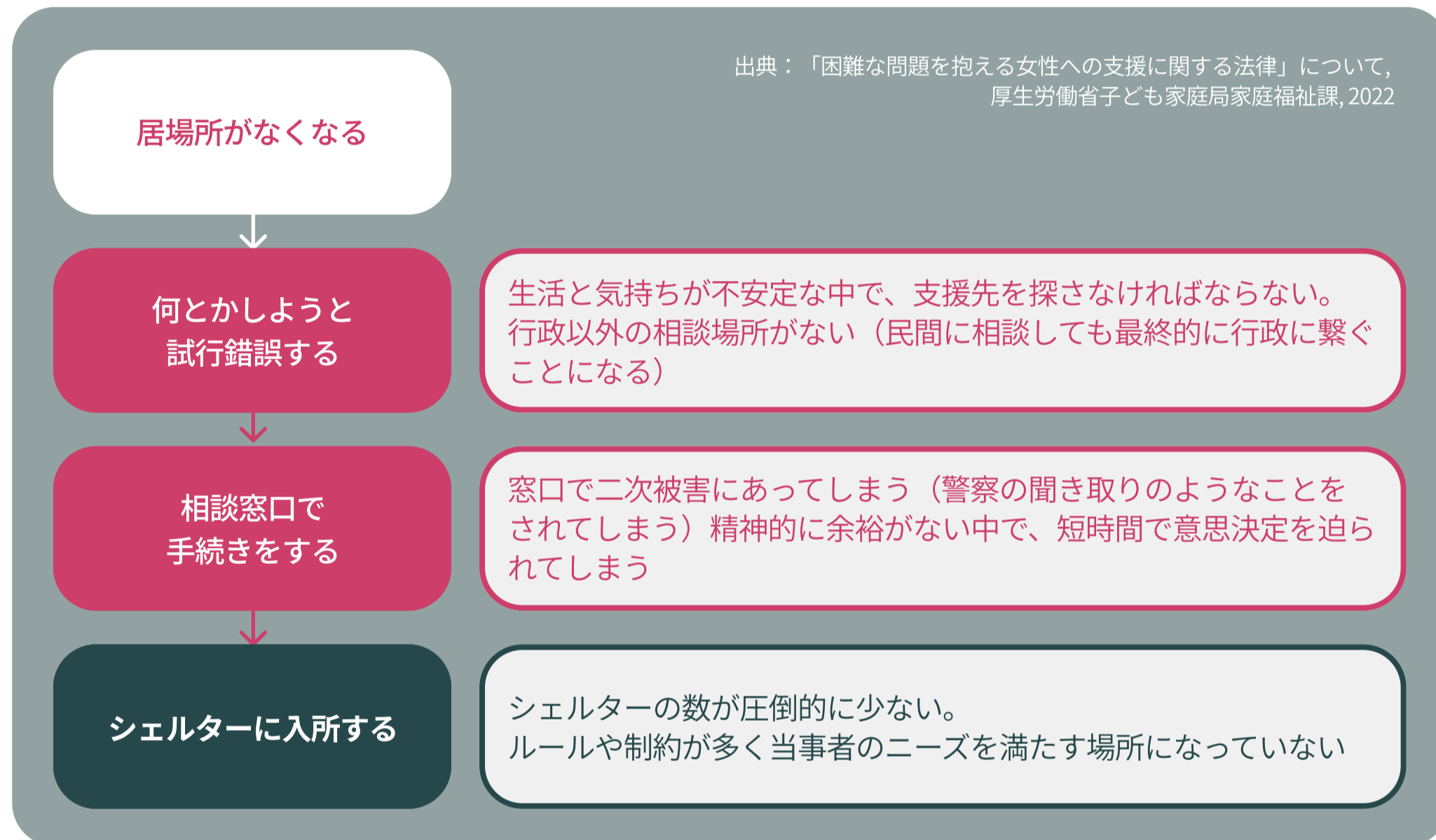
そもそも、今の「シェルターの現状」どうなっている？

ゆずりは、今日も住む場所がない人からの相談を受けています。
居場所がない人は公的シェルターにつなげるのが一般的な対応とされていますが...



Process
シェルターにたどり着くまで

Issue
プロセスの中で生まれてきた実態と課題



Issue 2

男性向けor女性向け施設とカテゴライズされセクシュアルマイノリティの選択肢がない

	女性	主に男性
法律	困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	生活困窮者自立支援法
シェルター施設型	約 50 箇所 (利用者730人)	約 54 箇所 (定員数498人)
シェルター借上方式	-	約1,167箇所 (定員4,182人)

日本では多くの施設が対象者を性別で分けているため、自分にとって馴染まないいずれかの施設に入らざるを得なかったり、そもそも相談段階で諦めてしまう現実があります。

生活困窮者自立支援法は性別を規定するものではありませんが、女性向けの法律があるものの、男性向けの支援の方が充実している現状があります。

出典：社会的養育の推進に向けて、こども家庭庁

Issue 3

安全のためのルールがつけられる一方で安心して暮らせる「質」が失われがちになる

voice

部屋はテレビ付き6畳ひと間の和室。洗濯とトイレとお風呂は共同。外部への情報漏洩や逃走を防ぐため携帯電話とお金を取り上げられ、入所者同士の会話も禁止されていました。外出は1日に1時間だけ。母子加算手当で1日700円支給されました。子どものおむつ、化粧品、洗濯に使う洗剤も必要で、全然お金が足りません。食事もおいしくなくて.....

ルールや制約が多く、当事者のニーズを満たす場所になっていない既存の多くのシェルターの実態である

出典：DVシェルターへの不信感を訴え_女性が急増、職員も「牢獄のうな管理」と葛藤, 週刊女性

Issue 1

シェルターの数が圧倒的に少ない

DVの被害件数
v.s. シェルターの定員数

85,000 VS. 6,000

DVの被害件数は年々増加しており、総数は約85,000件。シェルターの定員数は6,000名程度であるため、DV被害者のうち、シェルターを利用できるのは最大で10%程度しかいない。

出典：「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」について、厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課

「ながれる」は、性別を問わない／閉じ込めない

このような社会的背景を踏まえ、「ながれる」は、以下の点をコンセプトの中心に据えています。

- 性別や年齢で受け入れ可否の判断をしない
- 施設の個室に閉じこもらず、他者や街の気配を感じながら過ごせる

身の安全確保を最優先する既存のシェルターも当然社会において必要ですが、人との関わりの中、安心と居心地の良さを得ることのできる場所もあっていいはずです。



コンセプト

街に半分開いた

閉じ込めないシェルター「ながれる」

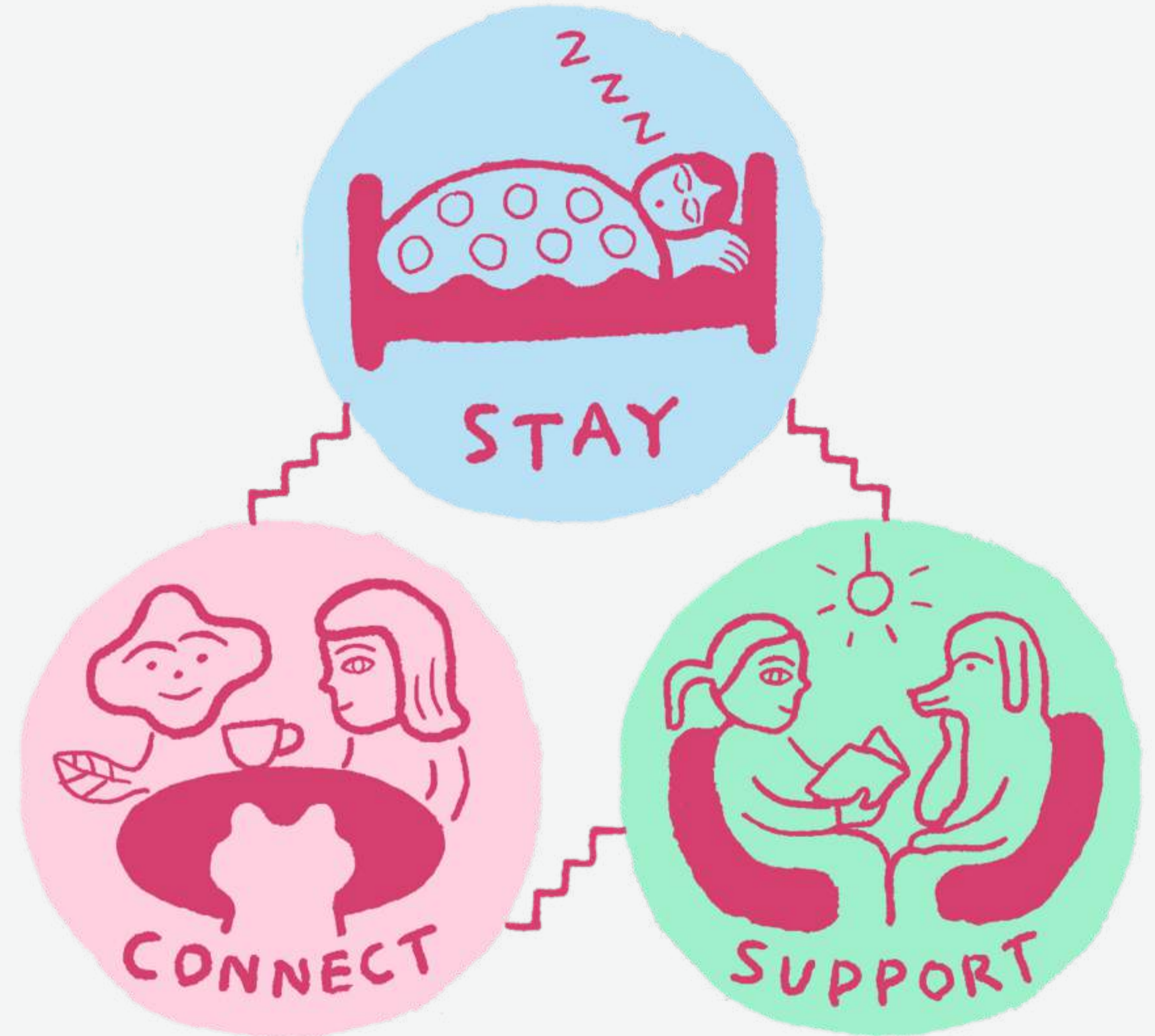
どこにも居場所がないと思った誰かが、ふと流れついた先。

・
・

この場を行き交う様々な人たちと、無関心でも過干渉でもない、ちょうど良い距離感で、同じ空間で食べるご飯が美味しい。目に映る植物や花の存在、街を歩いて感じる生活の気配が嬉しい。安全のために閉じ込められるわけではなく、外の風がほど良く流れてくることで、ほっと安心する。心身をチャージした後は、「これから、自分で自分の安心を育てよう」と、次の生き方へと再び流れだす。

・
・

居心地は良くても、留まることなく、次の場所、次の人生のステージにちゃんと流れていける場所でありたいと願って、「ながれる」と名付けました。



「ながれる」が大切にしたい、6つの価値観

場所

運営

利用

Value 1

安全はガマンじゃない。 安全と安心が共存できる場所

外部への情報漏洩や逃走…「安全」を担保するために携帯やお金が自由に使えないなど、既存のシェルターにはルールや制約が多い。安全はマニュアルで対応できても、安心はマニュアル通りでは生まれない。だからこそそのチャレンジ。

Value 3

運営側も無理しない、 楽しくやろうよ

相談者とのやり取りの中で、支える側が自己犠牲を払い、バーンアウトしてしまうことはザラにある。長年福祉の現場で闘ってきたからこそ、運営側も無理なく、気持ちよくやることの重要性を実感しています。楽しくやる、これ、大事。

Value 5

半開き。 めちゃくちゃオープンじゃないけど、 知ってれば誰でも立ち寄れる

イメージは、街に溶け込んだ紹介制のお店。いつでも誰でも入ってこれる訳ではないけれど、関係者から誘われて“半開きエリア”で食卓を囲んで、また誰かを誘う…そんな好循環。街の人とは、挨拶を交わしたり差し入れを渡しあったり、「ながれる」を応援してくれる、いい関係性。

Value 2

脱・無機質で 窮屈な「福祉施設」

例えば宿泊スペースが目指すのは、隅々まで気が配られたホテルのような設え。ただ寝ればOKではなく、明日も同じように朝を迎えたいと思って欲しいから、清潔なリネンと洒落たインテリアなど、当たり前を配ります。

Value 4

ゆずりはチームに、 入れ替わり立ち替わり 加わる外の風

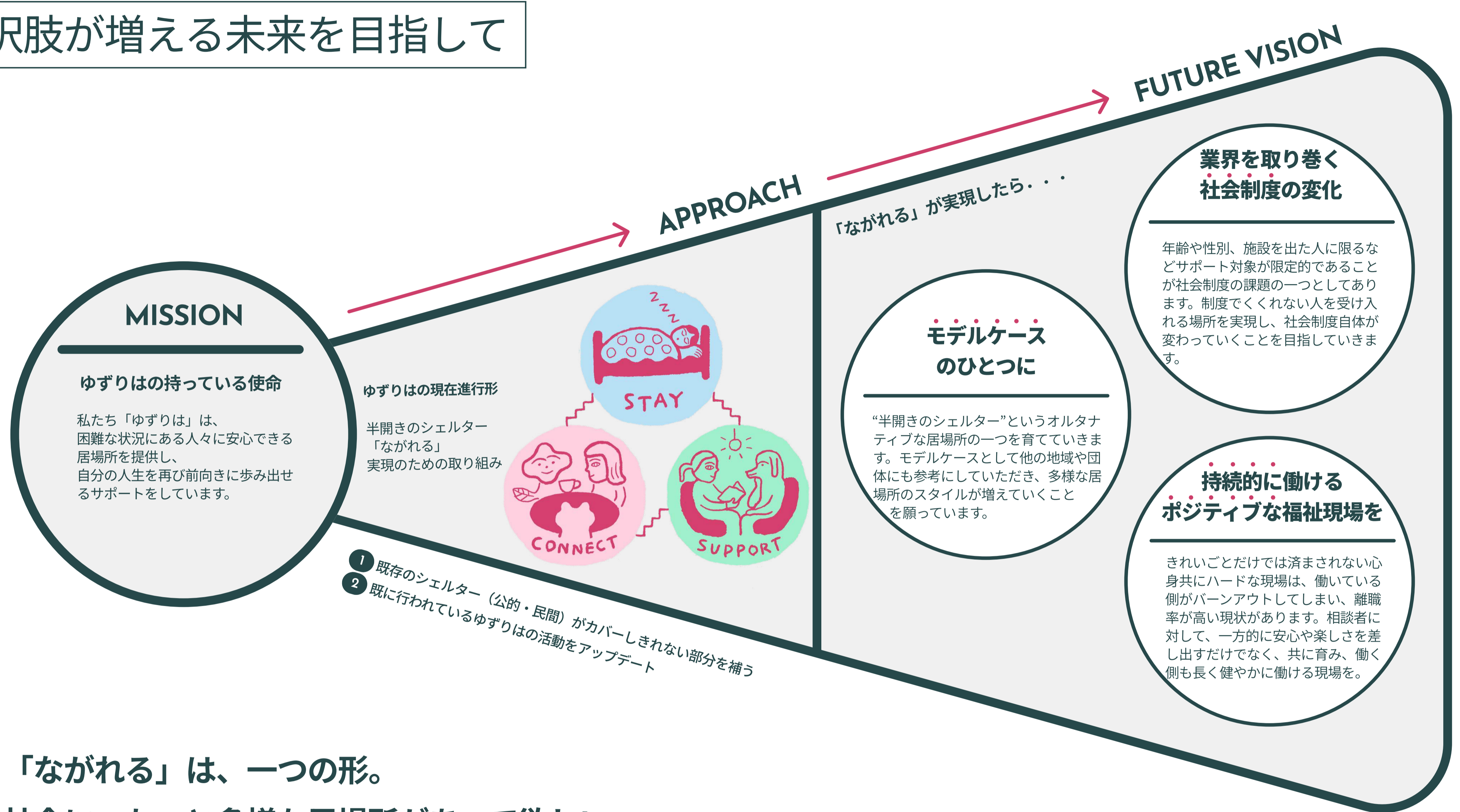
相談者と依存関係にならないことも大事なこと。とりわけ、街との接点となる“半開きエリア”には、いろいろな人が出入りすることで、「ながれる」の空気を固定化せずにかき混ぜ、ゆずりはスタッフの心にも、気分転換の風を吹き込みます。

Value 6

居たいから居る。 相談に来る人も、 店に立つ人も、街の人も

「～せねばならない」というルールや縛りは、場の空気をこわばらせていく。「ここに居なくてはならない」のではなく、「居たいからここに居る」…そんなスタンスで誰もが居られる場所にしたい。

選択肢が増える未来を目指して



「ながれる」は、一つの形。

社会に、もっと多様な居場所があって欲しい。

既存のシェルターも当然必要です。ただ、そこでは受け入れられなかったり、自分の居場所と感じられない人がいるのも事実です。「ながれる」ができることで、安心して過ごせる場所の選択肢が増えることを目指しています。

施設の中、福祉業界に閉じずに、街の外、他の分野と混じり合いながら、困難を抱える人、支援に関わる人にとって心地よいと感じる場所が一つでも社会に増えていき、10年後には、数ある選択肢の一つになっていますように。



3 CHAPTER
ZONING & SPACE
機能設計/空間の要件定義



「コミュニティの見える場面をつくる」

建築家と共に

安部 良
建築家, 博士 (芸術工学) 1966 広島県生まれ

1995 - 現在 Architects Atelier Ryo Abe 代表

2023 九州大学芸術工学府芸術工学専攻博士後期課程 修了
1994 一級建築士免許 (第258050号) 取得
1992 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻修士課程 修了

2020 - 総務省地域力創造アドバイザー
2016 - 2020 明治大学兼任講師
2015 - 2020 マルセイユ建築国立学校 招聘講師
2012 - 2014 明治大学兼任講師
2001 - 2011 東海大学非常勤講師

主な受賞歴
2021 日本建築学会賞作品賞「島キッチン」
2011 バルバラ・カポキン国際建築ビエンナーレ 2011 (イタリア) / Special Award of Excellence & Best work
2011 World Architecture Festival 2011 (イギリス) / Winner of World Culture Building of the Year
2010 WAN Awards 21 for 21 (イギリス) / Winner
2010 AR Award for Emerging Architecture (イギリス) / Winner

株式会社安部良アトリエ

地域拠点や新しい福祉の場などの設計を通じ、
“コミュニティの見える場面”づくりに取り組んでいます。

代表作である島キッチン (香川県豊島) をはじめ、あわくら温泉元湯 (岡山県西粟倉村)、十津川村高森のいえ (奈良県十津川村)、福屋八丁堀本店パブリックガーデン SORALA (広島県広島市)、豊島 mamma (香川県豊島) のほか、各地で住宅・店舗・公共建築・社会福祉施設などの建築設計業務を統括。地域活性の基盤づくりとその舞台となる場を手がけ、近年では南フランス・カラック国立公園など、海外での建築プロジェクトも進行中です。

Message

建築家からのメッセージ

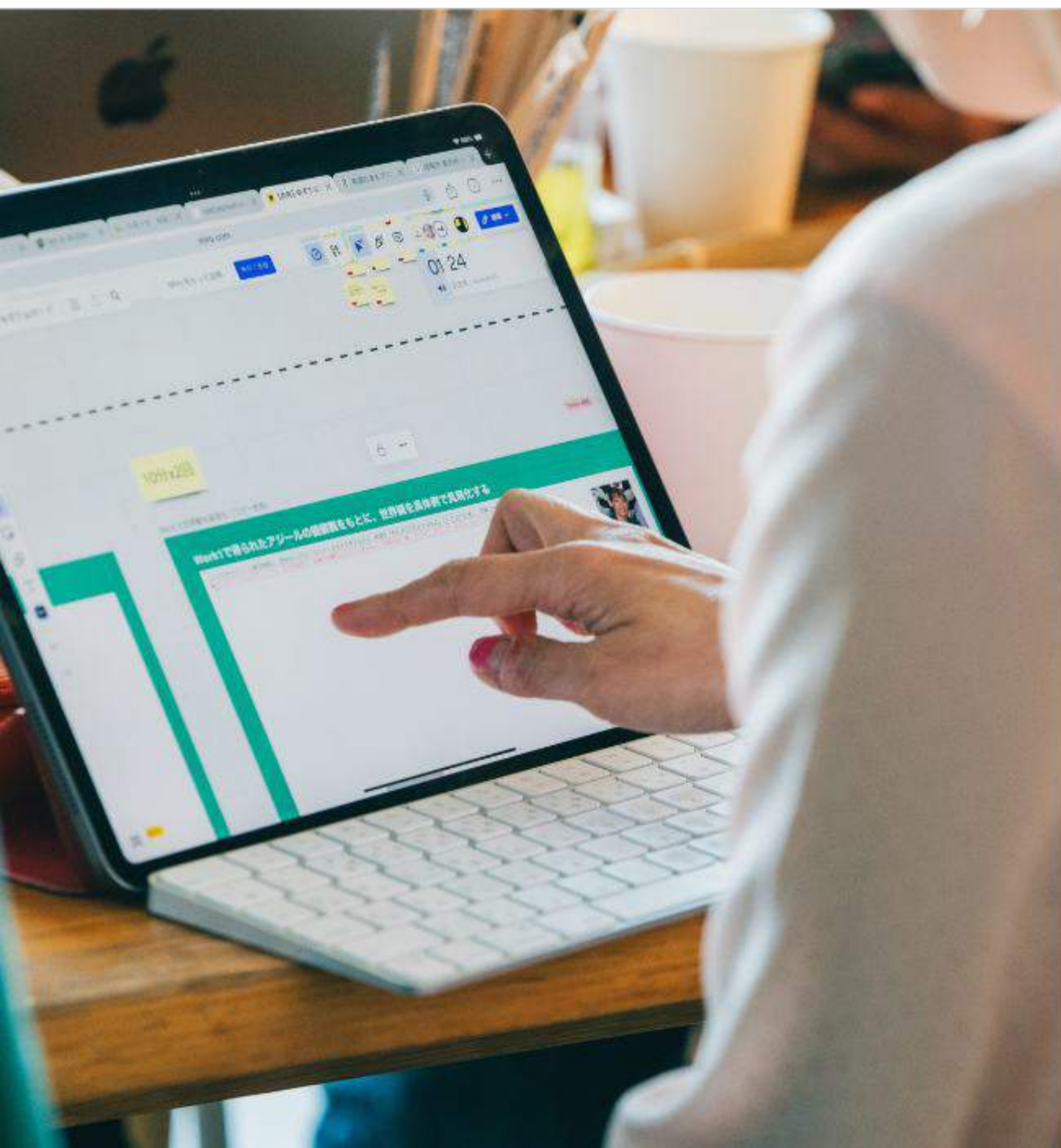
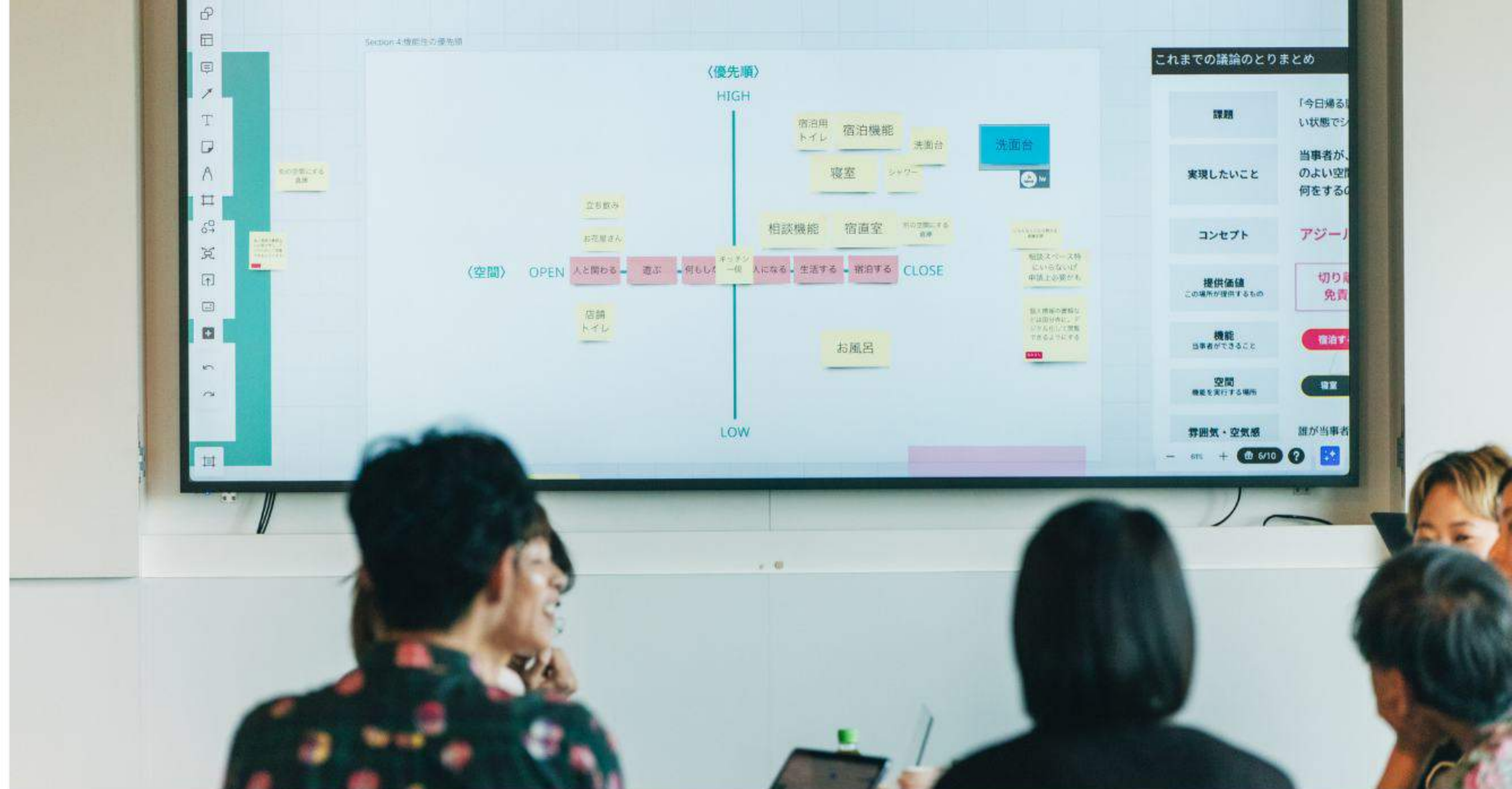
使い方に合わせて
空間もどんと変えられるように
活動に伴走しながら
街に半分開いた場所をつくっていきたい

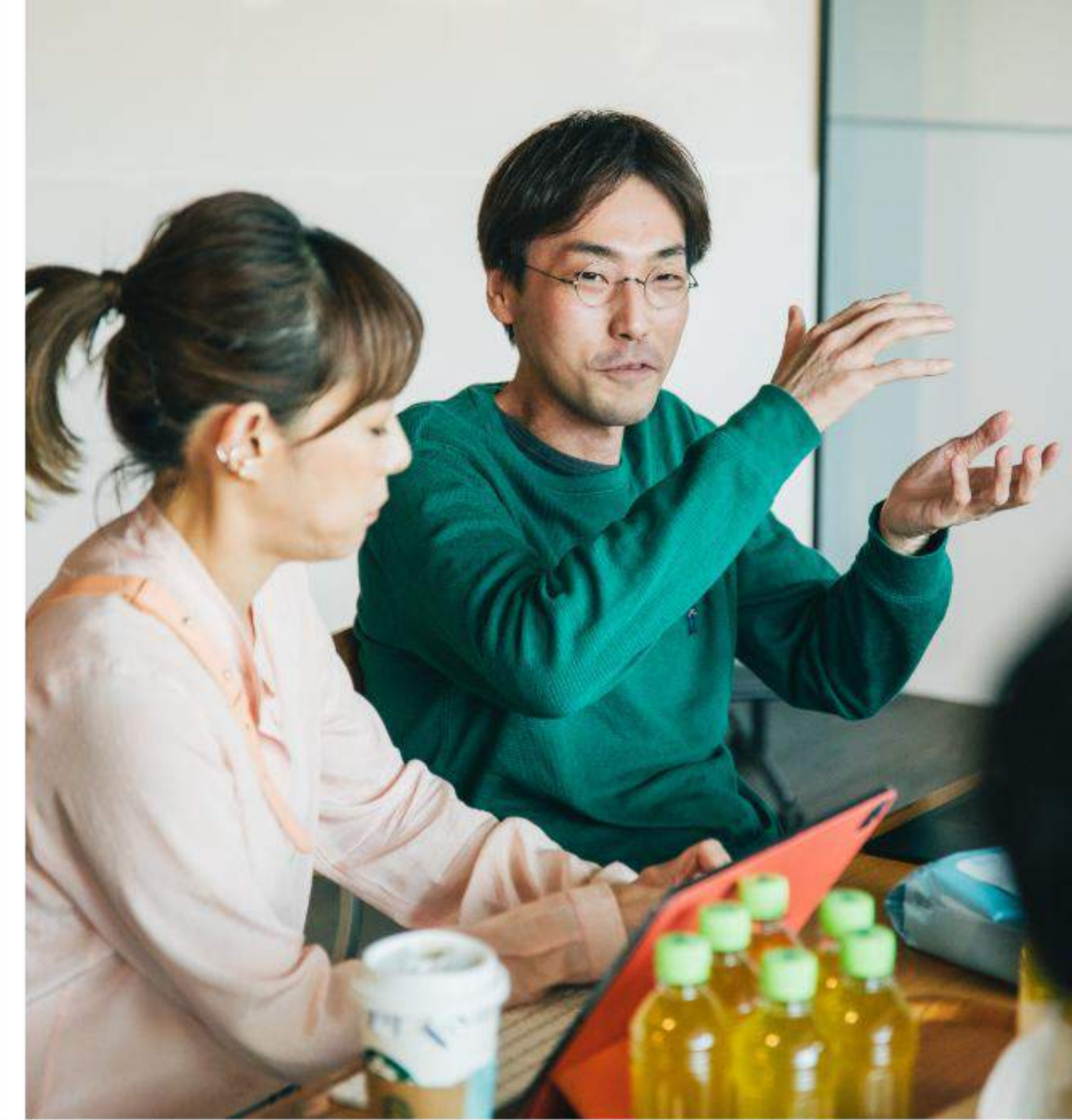


- 1 高森のいえ (奈良県 十津川村/2017年)
孤立した高齢者が集まり、村民が助け合い・支え合いながら自立生活してもらうための村営住宅、最期まで村で暮らせる住まいモデルを提案した。先祖の眠る聖地を守りながらも、人と交わる住まいで自立的に暮らせる2地域居住の仕組みでもある。
- 2 島キッチン (香川県 豊島/2010年)
民家を改修し地元住民と来島者の出会いを演出するコミュニティーキッチンを設計。
- 3 あわくら温泉元湯 (岡山県 西粟倉村/2015年)
村内で休業になっていた村営の温泉旅館を日帰り入浴、ゲストハウス、カフェなどを兼ねた施設へとリノベーション。村に暮らす高齢者から子どものいる家族、旅行者や新しい入村者など様々な人達に利用され、世代を超えた交流が生まれる場となった。
週末には様々なイベントも開催され村の交流ポイントとして賑わっている。



s it your
your matu
public sen
betr



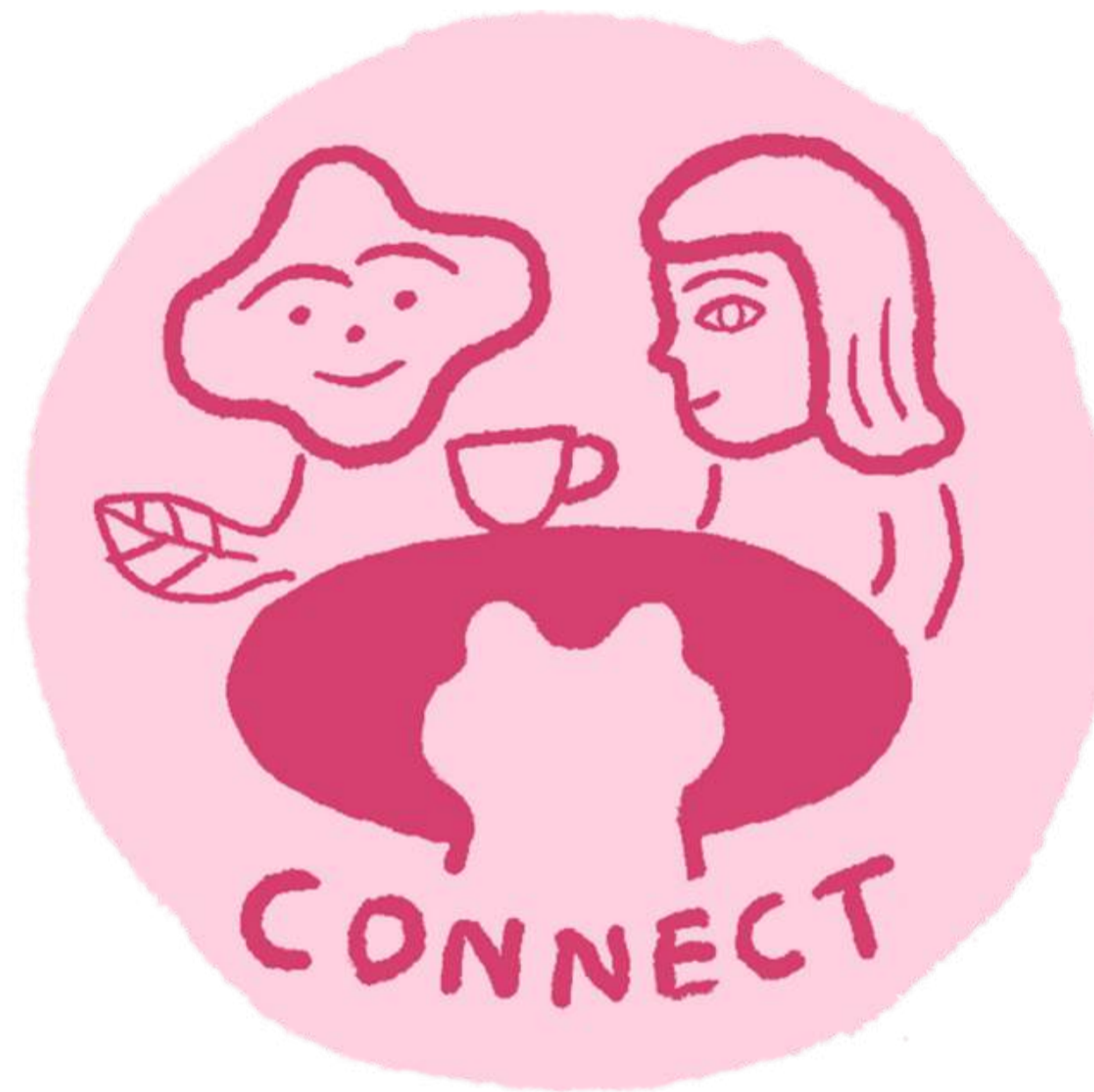


3つのエリア



| 宿泊エリア

さまざまな理由で今日帰る場所がなく一時避難が必要な人が、一時宿泊先として利用する場所。1部屋はホテルのシングルルームくらいのイメージで、ベットとコーヒーテーブル、簡易な洗面台がある。トイレとシャワーは共同。全2部屋。



| 半開きエリア

生きる喜びの根源となる食を大切にするため、キッチンとダイニングテーブルがある。固定的ではなく汎用的な使い方ができる空間。



| 事務所エリア

家庭用プリンタ程度はあるものの、全体としてすっきりとしている。簡単な事務作業のできるテーブル、落ち着いて座れるソファ、宿泊利用者も閲覧できる本棚がある。事務所というよりは心地の良いカフェのような空間。

利用イメージ

宿泊エリアで過ごす人たち

01 宿泊利用者 (TARGET USER)

さまざまな理由で今日帰る場所がなく一時避難が必要な人
死にたい、保険証がない、お金もない…今日どこにも帰る場所がないと、ゆずりはに相談をした10代後半から60代の男女が、一時宿泊先として利用する。(安全なシェルターを案内した方がよいとゆずりはスタッフが判断した場合は、公的な支援に繋ぐ)



例えばこんなシーン

ベッドとサイドテーブルがある清潔で居心地の良い個室にて、心身を休める。安心して眠り、安心して目を覚ます。個室から出て、「半開きエリア」で食事をとったり、近所の公園で散歩をするなどして過ごす。最短で2-3日の宿泊ののち、最長で半年程度(目標は1ヶ月以内)でアルバイトの契約をし、「ながれる」を旅立つ。そしてまた落ち着いた頃、「ながれる」に戻ってきて、自分のできる仕事をすることもある。

利用イメージ

半開きエリアで過ごす人たち

02 運営担当

コミュニティマネージャー

ゆずりは専門スタッフとは別に、街と繋ぐコミュニティマネージャーが半開きエリアの顔となる。福祉の専門家ではないけれど、街の人と信頼関係を築き、人とのコミュニケーションが得意。

03 流しの人

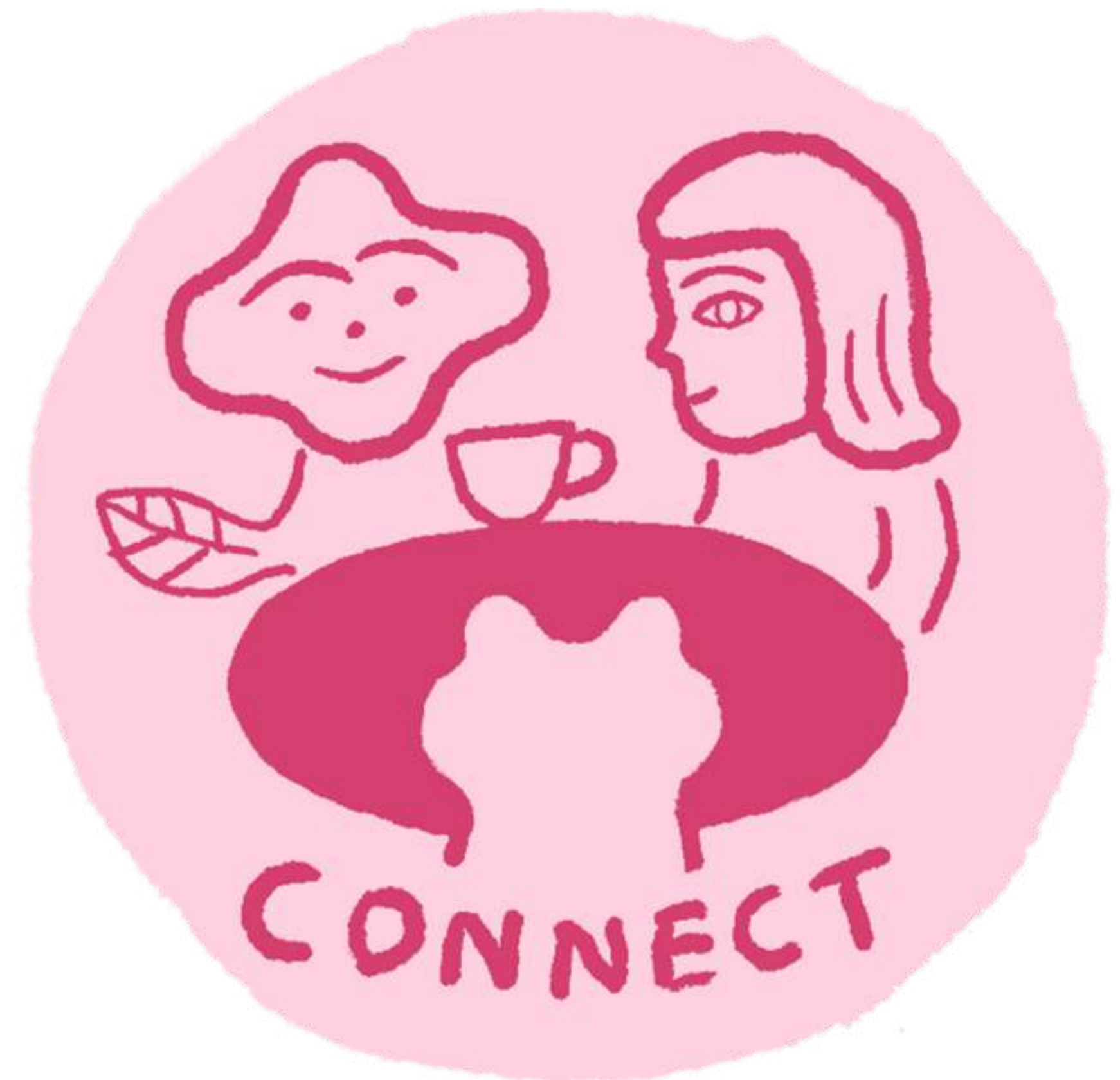
一時的に企画を持ち込み運営する人（料理人など）

半開きエリアのキッチンを生かした食の企画を持ち込む料理人をはじめ、「ながれる」のコンセプトに共感した多様なジャンルの人たちが関わっていく。コミュニティマネージャーが「流しの人」との出会いのきっかけとなることが多い。

04 一緒にやる人 (SECOND USER)

宿泊利用者、街で暮らす人、外からの来訪者

コミュニティマネージャーやゆずりはスタッフが媒介者となり、「流しの人」の企画と一緒に手伝ったり楽しんだりする。時に「流しの人」にもなる。



例えばこんなシーン

ゆずりはスタッフや、コミュニティマネージャーと繋がりができた街の人や、価値観に共感してくれた人たちが「ながれる」の食卓を囲む。「流しの人」の企画が行われる中で、誰かが宿泊利用者の話し相手になったりもする。誰でもOKではないけど閉ざしているわけでもない半開きの空間。

利用イメージ

事務室エリアで過ごす人たち

05 事務運営スタッフ

ゆずりはスタッフ、コミュニティマネージャー
基本的にはゆずりはのスタッフや「ながれる」のコミュニティマネージャーが事務作業を目的に利用する。ゆずりははスタッフとして、ボランティアスタッフなどが関わる場合もある。

06 施設の利用者

宿泊利用者、相談者
宿泊エリアの利用者。また、「ながれる」の取り組みに共感し関わりたい人（組織・企業などを含む）が、事務運営スタッフとコミュニケーションを行う場としても活用。



例えばこんなシーン

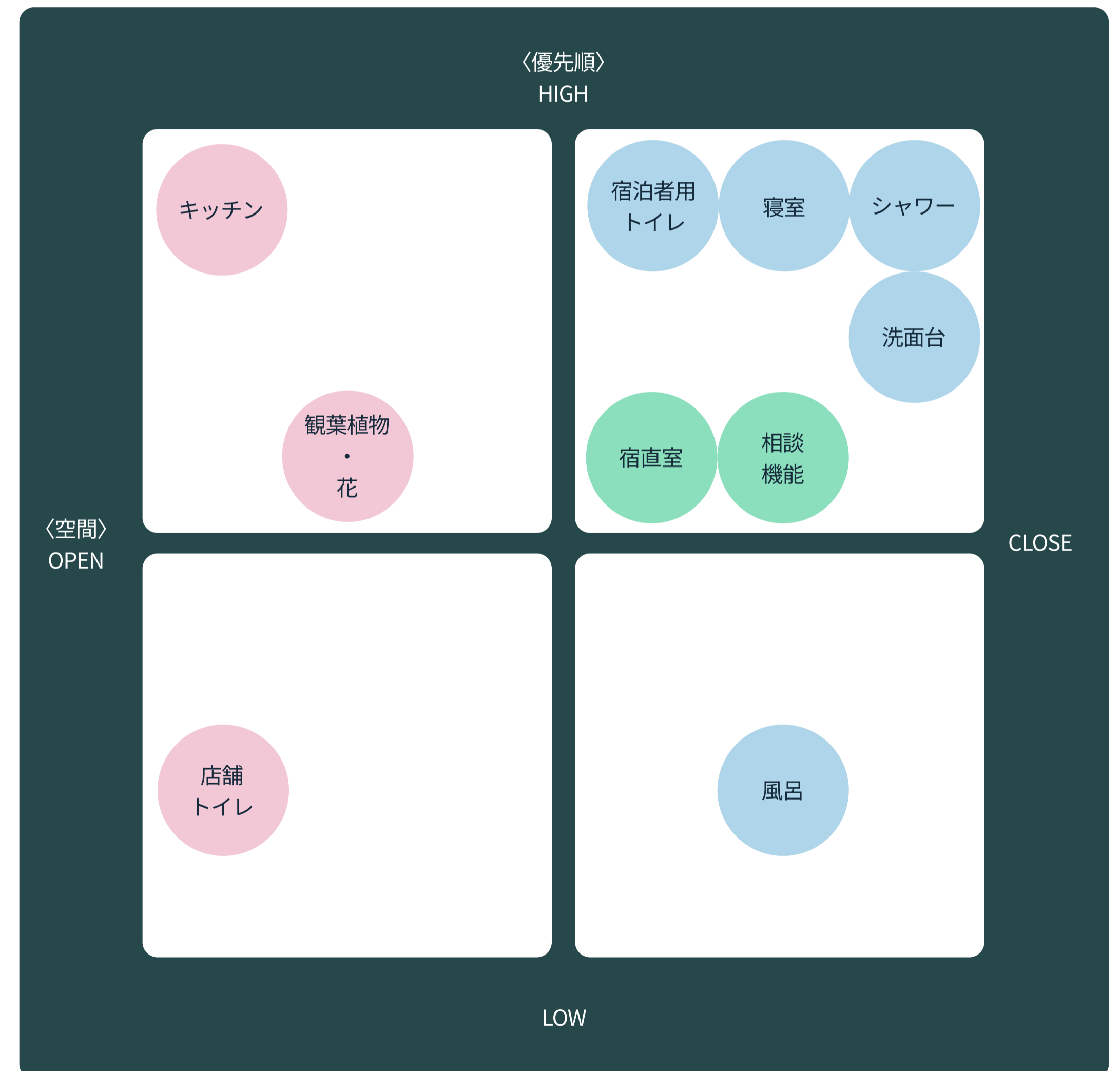
ゆずりはは専門スタッフの事務スペース。福祉の専門家として、相談やサポートを担当しつつ、福祉業界に限らず、アジールの取り組みに共感し関わりたい関係者（個人、組織、企業）への窓口となっている。落ち着いたあるソファや、セレクトされた本が並んだ棚があり、宿泊者が一人っきりの個室でもなく、知らない人がいる店舗でもない中間の場所としても利用している。基本的にモノは少なくすっきりとしているが、一部、宿泊エリアや半開きエリアで利用する備品のストック場所としても活用。

場の利用シーンと 空間機能優先順位

場の利用シーン

利用者	 虐待被害に遭って 逃けている 一時保護が必要な人	 地域の人 地域外部来訪者 宿泊利用者など	 運営スタッフ
利用人数	最大2人	20名程度	※運営体制検討中
利用シーン	宿泊、簡易シャワー、 共用キッチンなど	人と関われる 交流のスペース	宿直室 相談対応
利用頻度	年中	※営業日数検討中	24時間対応 ではない
場所性質	クローズ	オープン	クローズ

空間機能優先順位



物件情報

東京メトロ東西線 門前仲町駅から徒歩1分。
 深川不動堂参道沿いにある飲食店だった物件。
 東京駅からのアクセス抜群にも関わらず、
 暮らしの気配がそばにあり、屋上からの見晴らしも最高。

240523_改修案



物件探しについて

東京R不動産は、独自の視点と価値観で不動産を発掘し、紹介するサイト。東京R不動産のメンバーであり、「不動産で遊ぼう！」をテーマにホビーとして不動産を楽しむ不動産愛好家の室田啓介さんに、物件の紹介をしていただいた。ご自身も沖縄でホテルを運営したり、古い家を再生したり、リノベーションと場の運営の経験が豊富なため、物件選定の際に非常に心強い存在だった。



地域の雰囲気

「街全体が居場所」

物件選定の決め手は、物件自体の条件に加え、街の雰囲気の良さ。

「建物はリノベーションで何とでもなるけれど、街は簡単に変えられないからね」という設計者の安部良さんの言葉に勇気をもらい、私たちはこの街で「ながれる」をつくることに決めた。



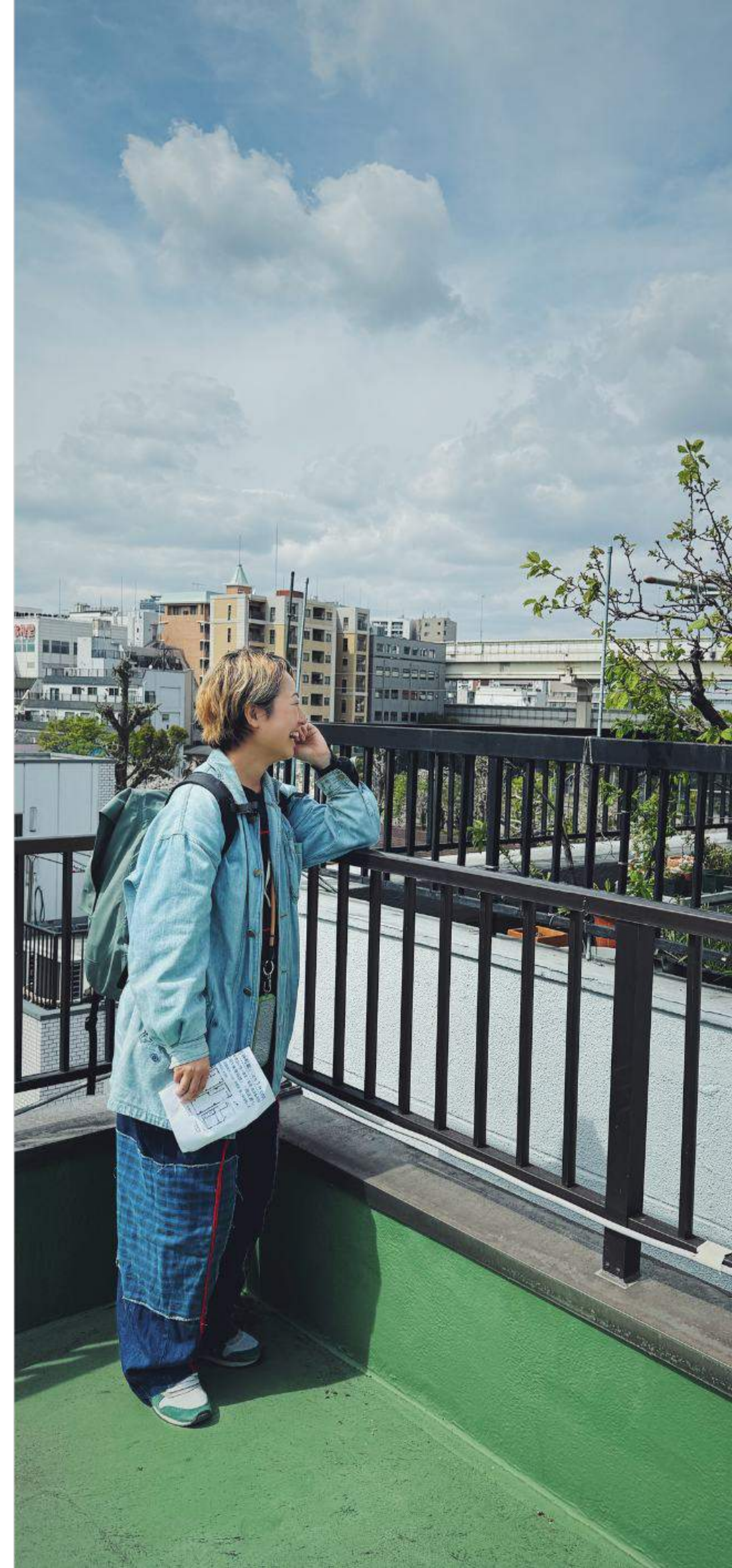
暮らしに近い 近隣関係

通学時にはランドセルを背負った小学生が行き交い、公園にはシャボン玉や砂遊びを楽しむ親子、日陰でスケッチをする年配者など、さまざまな世代の暮らしが息づいている。地元の人ばかり、という訳ではなく、深川不動尊へお参りに来た観光客のような人も混ざり合い、人の温かみを感じつつも程よい距離感が、ひと時の滞在をいい塩梅で歓迎している。

息抜きできる公園 心を満たす飲食店

参道沿いには、鯛焼き、パン、コーヒー、立ち飲み屋など、さまざまな食を提供する店が立ち並ぶ。参道ということもあってか、物件の前の通りに、「気」の良さを感じる。気持ちのいい道を歩くと、徒歩圏内に公園がたくさんある。ベンチに腰をかけて一息ついて、誰とも話したくない時も、四季折々の空気、植物の彩りを感じて過ごせそうだ。









CHAPTER
4 COMMUNITY BUILDING
コミュニティ形成計画

「ながれる」のロードマップ

「ながれる」をどのようなステップで育ていくか
場づくりの専門家たちを交えてディスカッションし
ロードマップを描きました。





場づくりの専門家とのディスカッション

#まちとの関わり #居心地の良い宿泊施設

街との関わりを大切に 居心地の良いゲストハウスを育ててきた

1984年、山口県萩市生まれ。山口県内の大学在学中に、カナダに1年半、ニューヨークに1年滞在する。帰国後、スポーツメーカーと旅館で勤務した後、2013年、萩ゲストハウス「ruco」をオープン。2019年、自身が代表を務める株式会社haseを創業。2020年8月、JR西日本との共同プロジェクトとして、山口県下関市山陰本線沿いの阿川駅をリユースし、小さなまちのkiosk「agawa」をオープン。2022年4月1日より株式会社haseの代表を兼務しながら、株式会社 Backpackers' Japan の取締役CCOに就任。2022年8月山口県下関市角島の近くに四季の茶屋「uttau」をオープン。

塩満直弘

萩ゲストハウスrucoオーナー
Backpackers' Japan 取締役CCO

Message

場づくりの専門家からのメッセージ

誰かしらの存在をやさしく肯定し続け、
その関わりから生まれた温度が
だんだんと街に染み出していってしまうような。
そんな「場所」をつくるための一助になればいい
と思っています。



- 1 愛する地元山口で営むゲストハウス「ruco」
- 2 山口県下関市山陰本線沿いの阿川駅をリユースした、小さなまちのkiosk「agawa」
- 3 Backpackers' Japan の取締役CCO (Chief Communication Officer) も務める



場づくりの専門家とのディスカッション

拡大家族的 # 下町でゲストハウスとバー

誰もがよりよく生きる社会を目指し
家族を開き、街と交わりながら頼り合える関係性を

合同会社こどもみらい探求社共同代表。愛知県出身。大学では福祉を学び、社会人経験を経て、保育士となる。こどもたちから得た学びを広げることが、「Well-being=誰もがよりよく生きる社会」につながると思い、子育てコミュニティの立ち上げを経て、2013年に合同会社こどもみらい探求社を設立。現在は神戸市長田区の下町情緒と多様性あふれる街に住みながら、人々とのつながりの中で私らしく、こども・家族と豊かに生きることを探求・体現中。

小笠原 舞

合同会社こどもみらい探求社共同代表

Message

場づくりの専門家からのメッセージ

一人ひとりのWell-beingに寄り添い、
安心・安全な場所づくりを。
そして、地域に愛着を持てる環境づくりを。
こどもも、大人も誰もが自分らしく生きられるよう
に伴走させていただきたいと思います。



- 1 昭和ヘタタイムスリップしたような下町で、長屋を3軒借り、うち1軒でゲストハウスを運営
- 2 2012年から運営する子育てコミュニティ「asobi基地」
- 3 自主事業「親子保育園」では、大人こそ自分らしさを大事にできるようにレッスンを実施。オンラインでも開催



場づくりの専門家とのディスカッション

#食でつくる繋がり #趣味とビジネスのあわい

世界中を旅して見てきた 食文化を通じて、人が繋がる場づくりを

1991年生まれ。107の国と地域を回った旅人。かつて暮らした
アフリカで心が救われた経験から日本にアフリカのおおらかで
多様な価値観を伝えるべく、イベントやツアーの企画運営、他
社のプロダクト開発、研修をはじめコミュニティビルディング
などを行う。アフリカを旅先とした企画旅行を販売予定。西ア
フリカのベナンとニジェール(クーデターで休止中)の村ではコ
ミュニティを再構築することを目的に現地の人たちとスパイス
農園を運営しており、いつかこの村で育てたコーラナッツを使
うことを目標に、アフリカ産のスパイスにこだわったAFRICA
COLAを日本国内で販売中。拠点は京都で、趣味はアフリカで坊
主にすること。

奥 祐斉

株式会社 bona 代表取締役

Message

場づくりの専門家からのメッセージ

私たちはどこから来たのか、今どこにいるのか、
そしてどこへ向かおうとしているのか…
ニジェールの村の長老からいただいた言葉です。
すべてのことは繋がっている…
そんなことに気付ける場所になって欲しいです。
今後も遊牧の民として、僕も関わり続けていきたい。



- 1 アフリカの村で見つけたコーラナッツからインスピレーションを得て作ったアフリカ産のスパイスだけで作ったアフリカコーラ
- 2 西アフリカ・ベナン在住の仲間と共に始めたスパイス農場
- 3 アフリカの文化や社会課題を伝えるイベントを多数開催







場づくりのアイデア、その1



福祉の専門家ではない

複数のコミュニティマネージャーと

どのようなアイデア？

Summary

「ながれる」と街の接点となる“半開きエリア”の顔は、人との繋がりづくりを得意とする福祉業界外の方に担ってほしい。福祉業界内に閉ざすのではなく、外の風を適度に入れてかき混ぜていきたいから。1人よりも2~3人と多様なキャラクターを持ったコミュニティマネージャーが複数いる方が、「ながれる」の世界は広がるはず。
 宿泊エリアと事務エリアがオープンしたら、今回コンセプトメイクに関わったプロジェクトメンバーと、ゆずりはメンバーが食卓を囲んで再会を約束。まずは仲間内から食のイベントを重ねていながら数珠繋がり、信頼できるコミュニティマネージャーとの出会いを手繰り寄せたい。

Keyword

- # 街との繋がり
- # 福祉業界外と混ぜる
- # 価値観の共有
- # 安心感

Quotation

場づくり専門家座談会での発言より

「ながれる」が大事にしたい価値観やバリューみたいなものを無視した人たちが、うわーっと使って、上の宿泊者たちが怖さを感じてしまうことにもなりかねない。

コミュニティマネージャーが複数人いると、ある種のフィルターをかけ、安心できる風土をつくっていきける。

奥 祐斉（株式会社bona）



Reference Example



FARMSTAND

兵庫, 神戸
 #街と農地を繋げるハブ #複数人のマネージャー

神戸で地産野菜とローカルフードを取り扱うお店「FARMSTAND」。2018年にオープンし、街と農地を繋げるハブとして賑わっている。オーナーとは別に、現場を任せられたマネージャーが2-3名と複数人おり、現場のスタッフも複数人いてシフト制で回っている。専任の場合もあるが、副業を前提としているため、農家、バリスタ、料理人、コミュニティマネージャーなど多様な職能を持ったメンバーが、店の顔として、生産者や街の人との繋がりを育てている。

場づくりのアイデア、その2



「何屋さん」でもない 多様な使い方・過ごし方

どのようなアイデア？

Summary

半開きエリアは〇〇屋さん、使い方を限定しない。人が集まる敷居を下げるため、食を中心としたコンテンツが展開できるように、しっかりとしたキッチンを設置しよう。ナチュラルワインを楽しむ日もあれば、花屋になるかもしれないし、アーティストの作品展示をするかもしれない。どれも同時進行で行われている日もきっとある。

様々な人が流れつき、過ごして、また次の場所へと流れていく場所だからこそ、何屋さんでもない場の在り方がちょうどいい。

Keyword

- # 固定化しない
- # 流動的
- # 何屋さんでもない

Quotation

場づくり専門家座談会での発言より

ポートランドに行ってすごく感動したカフェがあって、みんなが自由に色々なところで立ちながらしゃべっていたり座っていたりしている真ん中はポップアップストアみたいな感じで、奥は木工場。みんなコーヒーを飲みに来るって言うフックがあるから、そこから派生するものがある。

奥 祐斉（株式会社bona）



Reference Example



スープの冷めない距離

京都市, 京都

#飲食店 #複数人でシェア #多様な客層

京都中央卸売場外エリアにオープンしたばかりの飲食店。黄色いタイルのカウンターが目印。朝早く市場で働く人が昼食を食べたり、夜はおつまみとお酒が楽しめる場所を目指している。場所のオーナーと、近所に暮らす数名が仕事と遊びの間のノリで、共に運営をしていることから、「スープの冷めない距離」という名前をつけている。キッチンに立つ者は日によって変わり、子どもから大人まで、ふらっと立ち寄れる場所だ。

場づくりのアイデア、その3



顔となるプロダクトや
コンテンツづくりにもチャレンジ

どのようなアイデア？

Summary

「ながれる」の顔となるコミュニティマネージャーを育てることを目指している一方で、顔となるプロダクト開発（ゆずりはの国分寺のジャムのように）もゆくゆくは目指してみたい。ゆずりはのジャムづくりは、就労支援のA型にもB型にもハマれなかったりとか、あるいは色々やらかして出禁になってしまったりしたような人も製造に携わっているが、「ながれる」版も開発。

ブランディングをし、世の中に受け入れられるプロダクトを生み出し、「ながれる」の顔を目指す。プロダクトの売上は、ゆずりはの活動資金に充てていきたい。

Keyword

- # プロダクト開発
- # 仕事創出
- # ブランディング
- # 関わりしろ拡大

Quotation

場づくり専門家座談会での発言より

僕のイメージは、コミュニティマネージャーという顔がいる一方で、こういうコンテンツをつくって、それが顔になっていくのも面白いのではないかと。

塩満直弘（萩ゲストハウスrucoオーナー/ Backpackers' Japan 取締役CCO）



Reference Example



バターのいところ

那須, 栃木
#プロダクト開発 #仕事創出

バターは牛乳から4%しかできない貴重なもので、その過程で残る残り90%ほどの無脂肪乳は脱脂粉乳として安価で販売されている現状を打破し“無脂肪乳の価値を高めたい”という想いで、無脂肪乳を主原料にした商品開発がスタート。試行錯誤のうちに生まれた「バター-のいところ」は、すべての工程が手作業。就労支援施設を兼ねた工房で働くスタッフは、地元の主婦や障害を持った方がメイン。地域もつくり手も事業者も「三方よし」となる取り組み。



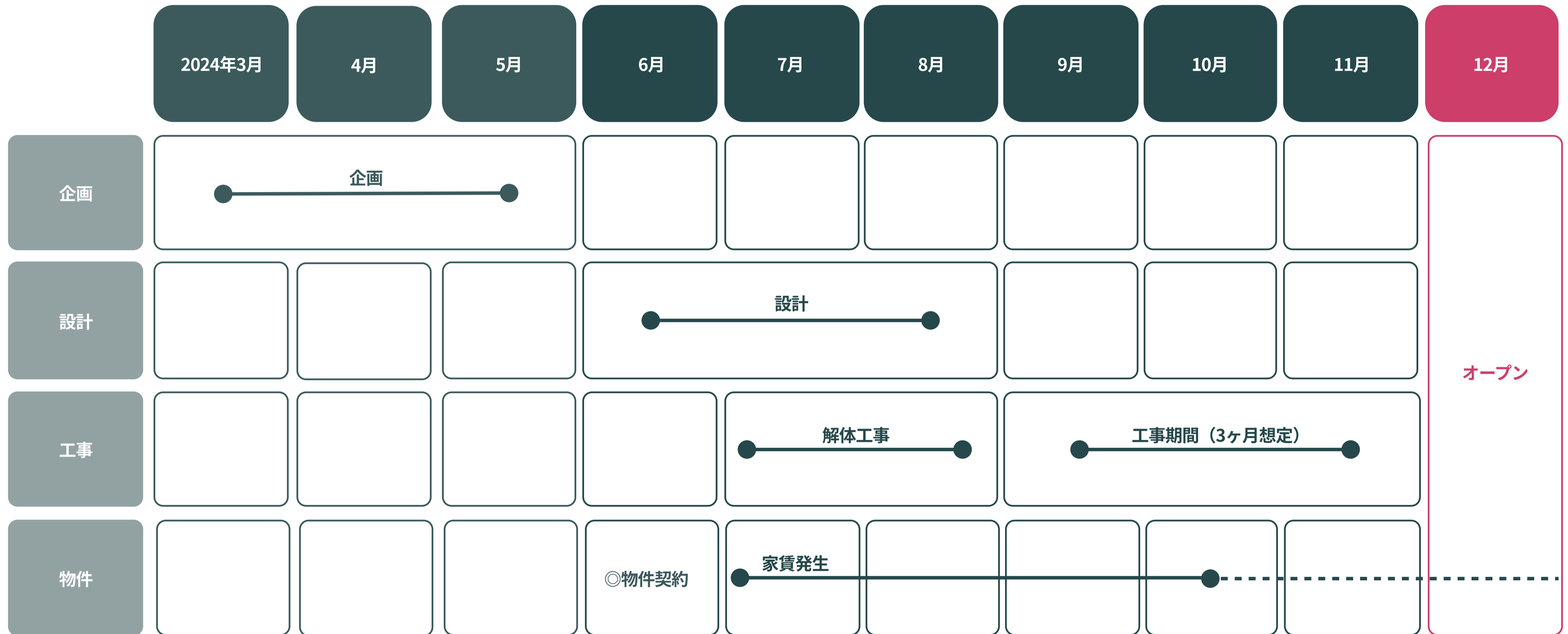
5

CHAPTER

SCHEDULE & JOIN US

今後のスケジュールと関わり方

オープンまでのスケジュール



おわりに



「ながれる」は、ここからがスタート。
物理的な空間づくりはもちろん、場の運営についても試行錯誤をして進めていきます。
まだ世の中にはないけれど、世の中であって欲しい居場所をつくります。

ゆずりはの高橋亜美が、自立援助ホームの職員をしていた時の話です。
被害を受けて何とか逃げてきた男の子3人、女の子3人のホームで、「一番死にたいのは、どんな時だった？」という話題になり、「やっぱり朝起きた時だよね」「朝、目が覚めた時が一番しんどい」と耳にしました。

目覚めた時に、「今日も生きなきゃ」、「今日が始まるのが苦しい」って15、6歳の子どもたちが、そんな思いをして生きていくなんで、辛って言葉じゃ追いつかない。

「ながれる」では、朝起きた時に私はこんな良いところで寝られていたんだとか、ずっとここにいたいとか…幸せとまではいけなくても、安心できる気持ちが生まれたり、出会いがあったり、生きていて良いんだって気持ちが芽生えたりするような、そんな場所をつくりたいと思っています。



「ながれる」との関わり方



問い合わせ先
<https://www.acyuzuriha.com/contact/>

「ながれる」はこれからも、
いろいろな形の仲間と手を繋ぎながら進めていきます。
興味を持っていただいた方は、一度ご連絡ください。

関わり方 1

寄付したい

ゆずりはの相談事業は、事業の特性上、すべて無料で行っています。相談の対応に必要なお金は、公的な補助金や、相談者が受けている生活保護費だけでは賄いきれません。ご寄付は以下等に活用させていただきます。

- ・相談者の交通費、ホテルなど緊急滞在費、住宅費、病院代など
- ・スタッフの人件費及び交通費

関わり方 5

取材依頼したい

「ながれる」の取り組みなど、ゆずりはの活動の取材のご希望の方はご相談ください。

関わり方 2

「ながれる」立ち上げの手伝いをしたい

オープンまでの間に発生する、力作業や掃除などボランティアでお手伝いいただける方はご連絡ください。(具体的にご依頼できる業務がない場合もありますのでご了承ください)

関わり方 3

ゆずりは業務全般の手伝いをしたい

「ながれる」にかかわらず、ゆずりは業務全般に関してボランティアでお手伝いいただける方はご連絡ください。(具体的にご依頼できる業務がない場合もありますのでご了承ください)

関わり方 4

「ながれる」の運営に継続的に関わりたい

「ながれる」のコミュニティマネージャーに適任な方がいれば自薦他薦問わず、ぜひご一報ください。まずはお話ししましょう。

